

# 医療ナビ

自分や大切な人の健康を守るために  
役立つ知識をお届けします。

医療法人尚豊会みたき総合病院(四日市市生桑町)に昨年11月、新たに透析棟が開設された。病床数は43床から97床と2倍以上、1日の最大受け入れ人数は午前と午後で計194人となり、無料送迎サービスやリハビリの体制も整備した。



人工透析を必要とする人は、全国に約35万人いるとされる。同病院では以前から透析治療はしていたが、地域ニーズの高まりなどから規模の拡大を決め、2020年から規格外敷地内の一部で新透析棟の建設を始めた。

木目調の内装を採り入れた新棟には、54人分のベッドや透析の治療機器などが設置され、既存の透析センターと合わせ病床数は計97床となった。

以前からしていた無料の送迎サービスは、新棟開設と同時に車両全てにリフトを導入。急遽車椅子になった場合も自宅からの送迎バス通院が可能になり、患者の自宅や入所施設まで出迎え、病院到着後もスタッフがサポートする。送迎エリアは四日市・桑名・いなべ各市と鈴鹿市の一部、菰野・朝日・川越各町。患者本人や家族からは「通う負担が減った」と好評だという。

新棟開設に併せ、透析治療と同時にリハビリを受けることができる環境も整えた。リハビリテーション科療法士長の丸山高志さんは「有資格者がチーム医療の体制を組み、リハビリを提供する」と話す。3人の理学療法士・作業療法士が常駐しており、患者はベッドに

寝た状態で透析治療を受けながら、筋力維持のため足を動かすリハビリを受けることができる。食事は弁当で、メインのおかずを数種類から選択できる。「さまざま希望にお応えできるようにこだわった。大事な1食を楽しみな

がら味わってほしい」と人工透析室長の渡邊知美さん。ポリウム食、軟飯、粥(かゆ)、刻み、一口大などにも対応している。総合病院のため他の科も受診でき、必要な時には一般療養病棟への入院がスムーズなのも強み。渡

邊さんは「透析治療とリハビリの連携が実現した。『家から通いたい、自分の足で歩きたい』という思いに込めたい」と話していた。

問い合わせは同病院 ☎059・330・6000 へ。



が常駐しており、患者はベッドに